



—— 上智大学創立110周年 —— ソフィア会のこの10年を振り返る

上智大学は今年創立110周年を迎えます。2013年の創立100周年から早くも10年。
この10年で、ソフィア会は大きく変身しました。

次のページと一緒に振り返りましょう！



上智大学創立 110 周年

ソフィア会のこの 10 年を振り返る



ひとつの到達点を示した 2013 年—上智大学創立 100 年

上智大学の創立 100 周年記念事業はもちろんソフィア会にとっても大きなイベントであり、そしてひとつの曲がり角となりました。100 周年というこの 2013 年に向けて、ソフィア会は組織を見直し、何年も前からいろいろなイベントを企画してきました。

2011 年度の重点施策として、まっさきに「上智大学 100 周年記念事業への積極的参画と募金協力強化」を掲げています。募金は、大学側からソフィア会・卒業生に対して 10 億 5,000 万円という数字が設定されました。ソフィア会にとってはかなり高い目標ではありましたが、これに向けて急ぎ活動を活性化させる必要がありました（最終的には、この数字を上回る 12 億 52 万円に達しました）。

そこでソフィア会は「地域・各種ソフィア会活動に対する連携体制推進」を目標に、まず「地域ソフィア会全国大会」をスタートさせます。2009 年のことでした。クラブ・サークルの OBOG 会など、それまで独自に活動していたさまざまな同窓会組織の統合を目指し、ソフィア会への登録制度を導入。この全国大会をテコに、創立 100 周年に向けてソフィア会全体としての体制整備に乗り出します。

第 1 回の九州大会（北九州市）を皮切りに、2010 年の大阪市（関西大会）、2011 年の甲府市（山梨大会）、2012 年の函館市（函館大会）を経て、創立 100 周年の 2013 年には東京での拡大大会を開催しようという計画でした（全国大会自体は現在も續いています）。

一方、大学は 2013 年 11 月 1 日、東京国際フォーラムで平成天皇皇后両陛下隣席のもと、創立 100 周年の記念式典を挙行。これに続き、同日夕刻からホテル・ニューオータニにおいて大祝宴も開催します。ニューオータニ最大のバンケットルーム「鶴の間」が卒業生で埋め尽くされました。

これに先立つ 2013 年の ASF（5 月 26 日）には 2 万 7,000 人が参加したという数字が出ています。その後の ASF への参加者はだいたい 1 万人程度ですから、この年の ASF への関心がかつてないほど盛り上がっていたかがわかります。



2013 年の大祝宴

創立 100 周年を機にソフィア会の新たな姿を模索する

しかしソフィア会は、この 2013 年の時点ですでに次の時代に向けて歩みを始めています。それまでの全国大会のひとつの区切りとして行った 10 月 19 日～20 日の「100 周年記念拡大東京大会」を、次の 100 年を見据えたソフィア会の新たな姿を探る「ソフィア NEXT100 プロジェクト」のキックオフ大会と位置づけました。

ソフィア会を、それまでのクラブ・サークルなどの単なる OBOG 会組織の延長線上に見るのではなく、「新しい繋がり、居場所の創造

の場」と位置づけます。そのため、拡大東京大会では新たな居場所の具体例として 14 のワークショップを開催。次の世代に向けたソフィア会の姿を模索しました。

また、その後竣工が予定されたソフィアタワー（6 号館）に新ソフィアンズクラブを建設、サロン、会議室、事務局を一体化した新たな活動拠点と位置づけたのです。創立 100 周年を機に、新たな取り組みが次々とスタートしました。新たな繋がりを作り出す学部・学科同窓会、ソフィア会のグローバル化を推進する国際委員会、そのひとつの結果としてのアジア・ソフィア会、さらにオリンピック・パラリンピック支援特別委員会などを次々と立ち上げます。

そして、「将来ビジョン」としてソフィア会のこれからの進む道を、具体的な数字を盛り込み、詳細に練り上げ発表しました。

コロナを乗り越え、さらにグローバルへ

しかし、その勢いづいていたソフィア会に新型コロナが襲い掛かります。コロナ禍は世界的に、そしてあらゆる事柄に多大な影響を与えたのですが、人との繋がりが基本のソフィア会はそれまでの取り組みを根本的に見直さざるを得なくなりました。

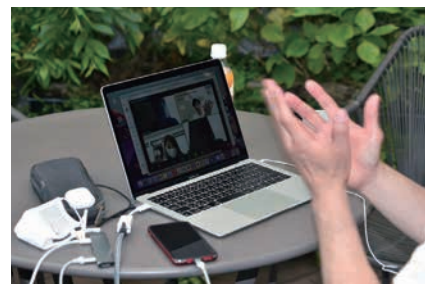
各ソフィア会の総会、懇親会などのイベントが極端に減りました。毎年開催していた全国大会も中止。代議員会も対面では行えず、“電磁的”な方法（これは会則での表現で、メールなどを使った方法）での議決を余儀なくされました。活動の停滞は、ソフィア会の Web サイト（ホームページ）の閲覧数にも現れました。それまでは対前年同月比プラスを記録していた閲覧数が、突然半数近くまで落ち込んだのです。

コロナはソフィア会にも危機をもたらしたのですが、それをさまざまな工夫によって跳ね返しました。たとえば、Zoom を多用するようになりました。これによって、オンラインの利点を改めて



見直すことになったのです。現在は対面との併用のハイブリッド方式が主流になり、講演会やイベントにも遠隔地の会員も時空を超えて参加、繋がるのが可能となりました。ASF や ASC でも、オンライン化によって海外の会員ともつながることができるようになりました。

考えてみれば、創立 100 周年から 110 周年の 10 年間は、かつてなかったような充実した 10 年間だったといえるのではないのでしょうか。



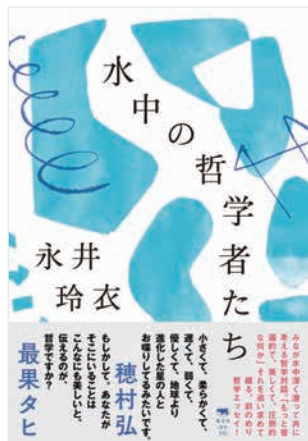
ノートパソコンがあれば世界のソフィアンと繋がる

会社員として働く傍ら、2021年頃から文筆家・書評家として活動することとなった。会社員だった頃にはあまり出会わなかったが、そうした活動を通して、上智大学の卒業生に巡り会う機会が増えてきた。

確かに東大や早稲田、慶應といった大学に比べると、文学や人文学の界隈で活躍する卒業生の人数は多くはないが、それでも個性豊かな人々を輩出しているのは間違いない。しかも近年ますます増えているように思う。そこで今回は、ごく一部ではあるものの、特に近年活躍されている卒業生を紹介したい。

まずは、永井玲衣（文学部哲学科）。哲学研究者であり、著書『水中の哲学者たち』（晶文社）は、紀伊國屋じんぶん大賞に入賞、更には、坂本龍一・Gotch が中心となって発足した音楽集団 D2021 のメンバーであり、ラジオ「西川あやの おいでよ！クリエイティティ部」でコメンテーターを務めるなど、正に時の人である。

彼女が専門としているのは「哲学対話」と呼ばれる、哲学的なトピックについて、参加者同士で話し合う対話である。永井は、学校や寺などに呼ばれ、そこに集った人々が哲学対話を行えるように、ナビゲーターなどを行っている。いつも大盛況らしく、場所によっては予約もとりにくいような状況だ。なぜ人々が哲学対話を求めるのだろうか。私見だが、経済の格差拡大や価値観の多様化によって、人々の分断が深刻化している中で、いったいどのように他者と繋がるべきかを人々が本気で悩んでいるからではないだろうか。永井のしなやかで柔らかな思考と言葉は、人々がまだ繋がれることを実感させてくれるのだ。上智大学の理念「他者のために、他者とともに」を体現し、広く伝えている一人とっていいだろう。



次に、書評家の倉本さおり（文学部国文学科）。馴染みのない方もいるかもしれないが、書評家とは、本を採り上げて、いったいどのような意義や面白さがあるのかについて人々に伝える仕事で、私もそのように名乗っている。共同通信や朝日新聞出版社の文芸誌「小説トリッパー」、「週刊新潮」



などで連載をしている他、作家とのトークイベントなど、文学の分野で実直に活動を重ねている。

書評家は様々な本を相手にする。つまり、特定の専門分野を持つというよりは、依頼や興味があれば、世界各国の文学はもちろん、ノンフィクションや社会批評、哲学など、特定のジャンルに限定せずに本を紹介することが多い。特に倉本は、現代日本文学を中心に、海外文学、哲学（中には上述の永井玲衣の本もある）など幅広い。そうした多種多様な対象を扱う中で、倉本が得意とするのは作品の読みどころや本質を簡潔に射抜く言葉にある。例えば、「誰の人生も切り捨てない「まとまらない」言葉の力」、「天国はつまらなくあってほしい」（いずれも書評サイト「ブックパン」より）など。本離れが叫ばれて久しいが、倉本のように、短く鋭い言葉で、豊穡で大きな本の世界に誘ってくれる書き手は貴重だ。



そして、ラランド（外国語学部スペイン語学科）。サーヤとニシダによるお笑いコンビであり、今やテレビをはじめ各種メディアで引っ張りだこの二人だ。二人は既存の芸能の事務所に所属するわけではなく、サーヤが代表取締役社長を務める個人事務所「レモンジャム」を設立し、そこに所属している。つまり、プレイヤーでありながら、事務所の社長も務めるという、新しい芸人の形なのだ。（ちなみに、同じ例には「さらば青春の光」がいる。）そんなラランドだが、この稿で特に紹介したいのはニシダだ。彼の読書量は早くから知られていたが、近年では作家として小説や書評を発表する機会が増えている。2022年にKADOKAWAのWeb小説サイト「カクヨム」に掲載した「アクアリウム」でデビューし、文芸誌での作品発表を続けている。ニシダの作品は、まず題材が王道でありながら奇抜なエッセンスが込められており、読む者の目を引きやすい。更に、本人の芸風を彷彿とさせるような、しっとりとした笑いが魅力だ。「作業中、とにかくしらすだけは大量にあるので暇つぶしのよう口口に運ぶことはよくある。食べるならまだ良い方で、先生が来ないのを良いことに実験室の教卓に入っているマッチを使って火葬と称して燃やしてしまうこともあった。」（「アクアリウム」第六話）など、実に見事だ。書評家としても、今期待の「作家」である。

最後に紹介するのは、藤岡みなみ（総合人間科学部社会学科）。歌手、エッセイスト、映画プロデューサー、書店の店主など、またまたマルチに活躍している。特にエッセイストとして卓抜した書き



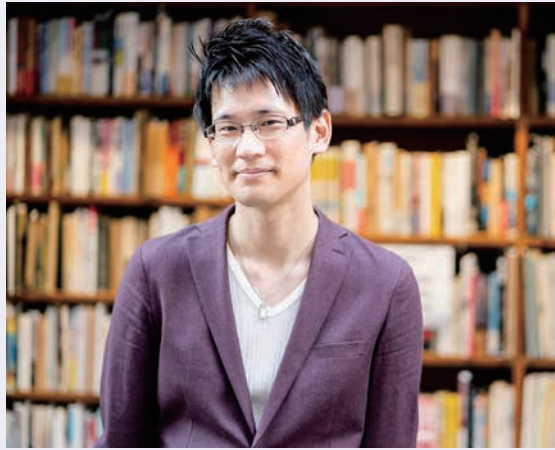
手で、近刊だと『パンダのうんこはいい匂い』（左右社）が大きな話題となった。タイトルになっているジャイアントパンダのほか、縄文時代、DIY、インドカレーなど藤岡の関心は常に絶妙なところを突く。私立大学で言えば上智大学を選ぶようなものかもしれない。異文化や、身近にありながらも見落とされがちなものに光をあて、誰よりも楽しみ、その魅力を読者に伝えてくれる。藤岡の魅力は、今回掲載されたエッセイを読

めば、すぐに了解してもらえはるはずだから、あとはぜひ読んでいただきたい。

以上ごく限られた範囲だが、近年、文学や人文学界隈で活躍している卒業生を紹介してきた。よく早稲田文学とか東大闊とかは耳にするが、上智大学で括られることは滅多にない。縛られない感じがそもそもの上智大学魅力なのかもしれないし、特に今回紹介した人々はそんな自由さを体現しているとも言える。だが、冒頭でも述べた通り、最近は同分野での卒業生の活躍が前以上に増えてきており、上智大学の特色がくっきりと浮かび上がってくる日も遠くないかもしれない。ぜひご注視いただければ幸いだ。

渡辺祐真（スケザネ）

上智大学文学部国文学科卒業（2011年度入学）。東京のゲーム会社でシナリオライターとして勤務する傍ら、2021年から文筆家、書評家、書評系 YouTuber として活動。テレビやラジオなどの各種メディア出演、トークイベント、書店でのブックフェア、大学や企業での講演会なども手掛ける。毎日新聞文芸時評担当（2022年4月～）。TBS ラジオ「こねくと」レギュラー（2023年4月～）。著書に『物語のカギ』（笠間書院）。



特別寄稿 | 藤岡みなみ

「四ツ谷まで歩き、四ツ谷から歩く」

9ピロのベンチで缶ジュースを飲みながら、友人に「アーティストになる」と宣言したことがある。2号館のテラスでうどんをすすりながら「ジャーナリストになりたい」と語ったこともあった。そして34歳になった私がいま何を名乗っているかといえば、文筆家である。他にも種々の肩書きがあるが、精神面でも収入面でも中心となっているのは文筆の仕事だ。ラジオパーソナリティや、ドキュメンタリー映画プロデューサーなどとしても活動している。友への宣言から十数年、紆余曲折あった。それでもやはり、上智大学で過ごした日々がなければ今の生活はないような気がする。

「当たり前を疑うのが社会学だよ」。先に上智に行っていた高校の先輩がそう言うのを聞いて、なにそれかっこのいい……となり、総合人間科学部社会学科を志した。家族、ジェンダー、都市、宗教、文化、その他すべてのあらゆる社会現象。人々の行動は常に社会の影響を受けていると学んだ。今まで自分が当たり前だと思っていたものは、

当たり前だと思われていたものなのかもしれない。私にとって社会学を学ぶことは、見えている世界を構築し直すことでもあった。ひとつの学問というよりも、大げさに言えば生きていく上での考え方の基盤になったと思う。当たり前を疑うという習慣により、もしかしたらちょっとひねくれたかもしれない。いや、それはもともとかもしれない。

四ツ谷までは、いつからか歩いて通うようになっていった。高円寺から片道1時間半ほど、ほぼまっすぐで比較的平坦な道のを無心で進む。電車を使えば20分で着くのに、なぜこんなことをしようと思ったのか。理由はいくつかあるが、大きなきっかけはゾマホンD.C. ルフィン氏の影響によるものだった。上智大学大学院の社会学専攻でいらっしやったという親近感からご著書を拝読し、子ども時代に学校まで10キロの道のを徒歩で通っていたというエピソードにしびれた。それに比べ自分は全体的に甘く、何をやっても

軽すぎるような気がした。往復3時間の無心の通学時間は瞑想のようなひとときで、頭の中を整理するのに役立っていた。街や人々の営みをぼんやり眺めながら、講義で学んだ社会の構造を実際の暮らしに照らし合わせ、馴染ませていく時間だったともいえる。電車は街の外側を走るけれど、徒歩なら街の中身が見える。

社会学科の学生になって、いかに自分が社会を知らないかを痛感した。オギャアとこの世に生まれてから大きな問題もなく呑気に成長し、ちっとも周りを見てこなかった。世間知らずな自分に焦り、少しでも経験値を増やそうと在学中に10種類のアルバイトを経験した。学生らしく、貯めたお金を国内や海外を旅することもあった。当時よく聴いていたのはくるりの「ばらの花」。宝物だった黒い iPod classic を片手に、安心な僕は旅に出ようぜと口ずさんだ。

映像系のサークルに所属していたが、ザ・映画通というよりは音楽や文学にも広く関心がある学生が多く集まっていた。仲間から映像編集やデザインを教わり、日常的に創作活動をするようになる。数ヶ月に一度、大きな教室で自主制作映像の上映会が行われた。ホラー映画のようなものを撮ったことがあり、学内でおそろしい雰囲気が出るスポットがどこなのかをまだ覚えている。夕方、3号館の廊下はかなり怖い。いまとなつては全く役に立たない情報だ。大切なことはどんどん忘れていくのに、こういうことだけは脳裏に焼き付いている。

放課後や週末はミニシアターに通い、ドキュメンタリー映画をよく観た。社会学科での学びと映像表現への興味が合わさった結果だった。スクリーンは知らない世界を知る大きな窓だと思った。映画を観た帰り道は熱い頭とざわめく胸を抱えてまたひたすら歩く。食糧生産の実態や沖縄の基地問題、難民に立ちはだかる壁。簡単に答えが出るようなものはあまりなかった。わからない、わからないと彷徨っていると、ふとした瞬間に講義で聞いたフレーズと結びつくことがあった。もやもやしたらとりあえず歩く、というのが今でも私のスタイルになっている。

卒業後、高校時代の同級生と共にドキュメンタリー映画を製作するようになった。最初の作品は、マーシャル諸島共和国における戦争の記憶がテーマだった。第二次世界大戦終結までの30年ものあいだ日本による委任統治が行われていたことは、今ではあまり知られていない。日本にルーツを持つ人々や日本語由来の言葉も多く残っているし、離島には大砲や火薬庫などの生々しい戦跡がいくつもある。美しい青のグラデーションの海を、砂浜に転がる鉄の固まりが睨む。マーシャル人のおじいさんは「日本もアメリカもいまだに修復に来ない」と言った。

毎日歩いて通学するなかで気づいたことがある。高円寺にはインド料理店が異様に多いのだ。街から街へ徒歩で移動すると、高円寺エリアに足を踏み入れた瞬間に空気ががらっと変わるのがよくわか

る。インド料理店だけでなく多国籍な店が多い。異文化が共存することが当たり前な雰囲気がある。それがとても心地いい。

3年生になると吉野耕作先生のナショナリズムのゼミに入り、「高円寺にはなぜインド料理店が多いのか」をテーマにフィールドワークを行なった。高円寺に存在する12軒のインド料理店をめぐり、あれよあれよと8キロ太った。研究以前に、バターチキンカレーとチーズナンのとりにこになってしまったのだ。店員さんとコミュニケーションを重ねてまずわかったのは、そこで働く人々の9割以上がネパール出身であることだった。そして、一見本場の味に思えるメニューの数々は、実は日本人客向けの味に微妙にアレンジされている場合が多い。つまり、ひとことでインド料理と言っても、ネパールの文化や日本の文化も入っている。一杯のカレーの中にスパイスと文化が溶けて混ざり合っていた。

昨年、異文化にまつわるエッセイ本『パンダのうんこはいい匂い』を上梓した。海外での体験だけでなく、経験していないことはすべて異文化だ、というスタンスで35本のエピソードを書き下ろした。だからシンガポールの話もあれば滝行の話もある。もう「外国だ！おもしろい風習！全然違う～！」みたいな消費にとどまっている場合ではない気がしたのだ。遠い国で生まれ育った人と私が違っているのは、幼馴染と私が全く違う人間であることと変わらない。ある集団が同質であるという幻想が、差別的・排他的な価値観につながる危険もある。そんな思いから、いっそ全てを異文化として捉え直すことを試みた。人がふたりいれば、それはもう異文化交流だ。今は亡き吉野先生にぜひとも読んでいただきたいかった。本をお渡ししたら、にやりと笑ったあとしみじみと表紙を見つめ、じっくり読んでくださったのではないかな。うつろい続ける社会において、社会学に終わりはない。ゼミにいた頃よりも聞きたいことが増えている。先生。これからも歩き、フィールドワークを続けます。



藤岡みなみ

1988年生まれ。文筆家など。学生時代からエッセイやポエムを書き始める。時間SFと縄文時代が好きで2019年にタイムトラベル専門書店 utouto を開始。主な著書に異文化エッセイ『パンダのうんこはいい匂い』（左右社）などがある。

もうひとつのホームカミングデー 2022年度の「祝典」を開催ー2月25日(土)

金祝、銅祝は6号館101教室。
ルビー祝、銀祝は10号館講堂で

大学主催行事として、卒業50周年(金祝)、40周年(ルビー祝)、25周年(銀祝)、15周年(銅祝)を祝う2022年度の式典が2023年2月25日(土)、6号館101教室(金、銅)および10号館講堂(ルビー、銀)でそれぞれ時間をずらして行われました。

各式典には、曄道佳明上智大学長、佐久間勤上智学院理事長、鳥居正男ソフィア会会長が出席。曄道学長からは「ワンキャンパスにすべての学部を揃え、卒業生の活躍もあり、この50年でいかに上智大学が発展してきた」との具体的な事例の紹介があり、「さらにグローバル教育を充実させていきます」と述べられました。

その後、祝状と花束贈呈が行われ、祝辞を佐久間理事長、鳥居会長からいただきました。佐久間理事長はコロナ禍での学生や留学生の窮状について話され、卒業生が「他者のために、他者とともに」を様々な形で援助していることに触れ、感謝されました。鳥居正男会長は奥様が金祝に参加されていること、ソフィアンでいることのすばらしさやソフィアファミリーの絆についてお話しをされました。



金祝

続いて、金祝では卒業生を代表して、富田隆さん(文教)が「学生時代、学園紛争の真っ只中、学生会長として苦労されたことが懐かしい思い出になっていること、そして卒業して50年、ふたたび学友と再会できる式典を開催していただいたことに感謝している」などと話され、この式典に参加できなくなった物故者に全員で黙祷を捧げました。

銅祝からは祝状を授与された三谷さんが、在学時代に有益な日々を過ごしたことや、卒業後に上智出身の友人や先輩に支えられていることの感謝を伝えました。

最後に、祝賀パフォーマンスとして、上智大学体育会応援団が校歌や応援歌を披露。式典後、金祝は「語らいの場」として会場を9号館地下カフェに移動し、旧友との再会を喜び合い、学生時代の懐かしい話に花を咲かせました。当日の金祝式典参加者は343人でしたが、三々五々散会し、四ツ谷駅周辺やしんみち通りで旧交を温めあったグループもいたようでした。



銅祝

一方銅祝は、式典後は2号館5階の教職員食堂にて語らいの場(懇親会)を行い、コーヒーや軽食を片手に同級生たちと話しました。銅祝式典の参加者は120名、語らいの場の参加者は80名弱でした。

金祝、銅祝に続き、11時半からは10号館講堂においてルビー祝、銀祝の祝典が行われました。ルビー祝の参加者は346名。式典後は2号館5階の学生食堂において、語らいの場として全体会を開催しました。

銀祝も、ルビー祝と同じく10号館講堂で開催。式典後は11号館地下のラウンジ同期の茶話会を行いました。祝典にはおよそ270名が参加しました。

2023年度の各祝式典も2月に開催

コロナ前は5月のASFと同時開催されていた祝典ですが、来年(2023年度)もASFとの同時開催は見送り、2024年2月を予定しています。開催日は決まり次第、ソフィア会ウェブサイト、メールニュースなどでご案内します。対象年の卒業生には案内状を送付いたしますので、下記URLページから住所・メールアドレス等の登録をお願いします。

<https://idb.sophia.ac.jp/sophiaDBunion/applyEditInfo/>

各祝典の対象者は以下の方々です。

金祝(卒業50周年) : 1973年卒業
ルビー祝(卒業40周年) : 1983年卒業
銀祝(卒業25周年) : 1998年卒業
銅祝(卒業15周年) : 2008年卒業



上智大学&ソフィア会共催講演会 スターバックス コーヒー ジャパン CEO 水口貴文氏 「人、地域、地球とつながり、意義ある成長を」

1月31日(火)午後6時から、学内6号館101教室およびオンラインで、「経営者に聴く」シリーズ第6弾としてスターバックス コーヒー ジャパンのCEO 水口貴文氏にご登壇いただきました。オンラインと対面合わせて約1100人の参加申し込みをいただきました。

<企業のミッションに共感して、働く>

お話しの中に出てきた、「地道に」「人」「つながり」「温かい」「地域に根付く」「誠実」「自分事にする」「共感」「心を豊かに」「一人一人に寄り添う」「コミュニケーション」「信頼」・・・という言葉が、強く心に残りました。それは、私が想像していた外資系企業のイメージとは違ったものでした。外資系というのは効率を重視し、グローバルに管理され、ドライな社風だと思いこんでいたのです。

スターバックスには接客マニュアルはなく、日本でのビジネスは、ほとんどが日本に委譲され、さらに店舗のアルバイトの採用は店長に権限が与えられています。普段、私たちがお店に行った時に感じる気持ちの良い笑顔や温かさは、企業のミッションに共感する一人ひとりの働く人たちの毎日の努力の積み重ねで生み出されていました。

「スターバックスのミッション"人々の心を豊かで活力あるものにするために— ひとりのお客様、一杯のコーヒー、そしてひとつのコミュニティから"に共感しているパートナー（従業員）が多い会社だと思う」と、水口社長は語ります。

「ずっと、人が中心にいるブランドを作ってみたいと思っていました。利益と社会的価値の両立を目指している会社であるところも魅力でしたし、日本に元気と活力をもたらしたいと思って入りました」。その根底には創業者ハワード・シュルツの「企業リーダーとして私が求めるのは、常に利益と社会的良心を両立させようとする、優れた永続的な企業を築くことである。」という思いがありました。

<地道に信頼関係を築いて>

2022年9月末現在、スターバックス全国1771店舗には、正社員とアルバイト（3分の2が大学生）あわせて約4万8000人が働いています。会場にもスターバックスで働いている方や働いていた方が、かなりの数、いらっしゃいました。パートナー（従業員）と呼ばれる働くすべての人たちに対して、「会社が大切にしていることと個人が大切にしていることの接点を丁寧に話し合っただけで目標設定をしている」と言います。会社と自分の目標のベクトルが同じであれば、自分事として取り組むことができ、力が沸き、前向きなエネルギーで顧客を笑顔にすることができるでしょう。

さらに、「日々、称賛・行動強化のためのフィードバックをすることをすこく地道にやっています。信頼関係を築いたうえで、きちんと人と向き合い、いいことも悪いことも伝えることを大切にしています。そうでないと、人は育ちません」。ミッションへの共感をベースに会社と個人が共に成長し、さらに地域のためになることを目指しています。



<20代の時の経験が、経営哲学に>

こうした水口社長の経営哲学は、ご実家である靴の製造卸の会社にいたときにできました。24歳で入社し資金繰りに苦しみ、製造が海外に移転される時代だったため毎月リストラをしなければならぬ状況でした。その時に学んだのは、利益を出さないと何もできないということ。また、どんなに素晴らしい技術を持っていても、1つの仕事しかできないとリストラの対象になってしまう。それは翻ると、会社がその人に成長の機会を与えなかったからではないか。会社は、会社を通して人が成長する機会を提供することが大切であり、それができない責任は会社にあると思ったそうです。そしてコストカットをするのではなく、付加価値をつける仕事をしていこうと、決めました。

ご自身が大切にしているリーダーシップについても教えてくれました。変化の時代は好奇心を持って行動すること。あきらめずに、やりぬくこと。その2つがあれば、新しい価値を作り、イノベーションすることができる。また、人のために何ができるか。働く仲間たちのために何ができるのかを考えるのが自分の最大の仕事だと言います。そして、ありのままの自分であること。「できているかどうかわからない。でも、頑張っている」という言葉に、「たかさん」と呼ばれ、信頼され親しまれている、水口社長の謙虚さがあふれていました。

スターバックスには、「人と人とのあたたかいつながりをつくりたい」という目標があります。最後に映し出された映像には、上智大学の「For Others, With Others」の文字が浮かびました。この建学の精神「他者のために、他者とともに」こそが、私たちの生きる道なのだと思えました。

ソフィアの 広場

海外地域ソフィア会

64団体

投稿記事を読ませていただくと、欧州ではコロナ禍はもう終焉してしまった印象を受けますが、懇親会の開催が目立って増えてきたのは国内地域ソフィア会。期せずしていくつもの記事に3年ぶりという文字が踊っています。これから投稿記事も一挙に増えそうですね。ただ、申し訳ないのですがオンラインによる開催で写真のない団体の記事はソフィア会のホームページで閲覧ください。金祝燦燦会の俳句コンテストの記事、読みごたえがありました。ありがとうございました。記事を短かくしてしまってますみません。

アイルランド・ソフィア会

開催日：2022.10.22

夕食会をダブリン・テンブルバー近くのベトナムレストランで開催。9月に新たに到着した交換留学の学生さん3名も参加してくれました。アイルランド在住の仲間どうして初対面という人もいたので、今回は自己紹介をしました。とりわけ、何年も仲良くしているウィリアムがそもそもどうして留学先として上智を選んだのかという話は初耳で、とても興味深かったです。



食事のあと外へ出ると、ハロウィーンの近づく夜のダブリンの街はイルミネーションがきらきらして、もうすっかり活気が戻ったようです。コロナの影響はなかなか完全にはなくなりませんが、こちらではマスクをしている人はほとんど見られず、普通の生活に戻ったように感じています。

アイルランド・ソフィア会

開催日：2022.10.28

ハロウィーンの週末を控えた金曜の夕方、国際会議のためアイルランドへ来訪された浬道佳明学長、葛西利衣子さん（総務局室）と、ダブリン都心のリフィー川にかかるHa'penny Bridge 近くのレストランで夕飯を一緒にしました。



前代未聞の「学長来愛」のこの夕食会に、アイルランドソフィア会から、Beere 直美さん（1995 文社）と石本美智子さん（文英1年生の学生さんのお母様）と田中が参加。最近の上智大学の話題として、ウクライナからの学生さんの受け入れと長期的な対応について気遣われていること、また浬道先生のご専門の領域に関して、JR との共同研究のお話を伺いました。

アムステルダム・ソフィア会

開催日：2022.10.30

19名のご参加をいただいて懇親会を開催し、にぎやかに美味しい中華料理を楽しみました。人数が多かったので二つのテーブルに分かれてしまいましたが、どちらのテーブルも開始から解散までおしゃべりが尽きぬ様子で大変盛り上がりがありました。今回はドイツからファミリーで参加してくださった方もいらっしゃいました。初参加の会員も増え、これからもますます活発に活動をしていきたいと思えます。集合写真はライツェ広場にある International Theater 前に移動して撮影しました。



ベルギー・ソフィア会

開催日：2022.11.12

あまり活発といえないベルギー・ソフィア会ですが、コロナ禍が明けたあけた11月12日（土）、久しぶりに小さな会合を持ちました。前日やむ負えず欠席となった方がおふたりいたので、総勢たったの5人。それでも、カトリック最古の大学のある街ルーヴェンで、現役留学中の若い村上君も交えてたくさんおしゃべりして元気をもらいました。



サンパウロ・ソフィア会

開催日：2022.11.18

市内 Aclimação 地区にあるロシア料理店 Barskiy Dom にて忘年会を兼ねた食事会を開催。初参加の方も含め総勢14名が参加してブラジルでは珍しいピエログ等ロシア料理を頂きながら近況報告やブラジルあるあるトークで盛り上がりしました。



サンパウロ市では新変異種による感染も増えてきており、公共交通機関でのマスク着用が再度義務付けられる等、感染対策への注意喚起がされている今日です。サンパウロ・ソフィア会でも「気を緩めずに最善の注意を払いつつ」約60名在籍するサンパウロのソフィアズとそのご家族の親交を深める食事会・イベント等を開催していければと考えております。

ワシントンDCソフィア会

開催日：2022.11.30

サンクスギビングから数日経ったワシントンDCでハッピーアワーを開催。今回は総勢7名が参加し、それぞれの母校での思い出やDCでの生活について、世代や所属を超えて、楽しく語り合いました。現役大学院生や、社会人2年目の方、そしてDC在住10年以上の方等が一堂に会し、様々な分野で活躍するソフィアンの繋がりを



感じる事が出来ました。12月に入り一段と寒さが増すワシントンDCですが、クリスマスのライトアップで街がホリデーモード一色です。

台湾ソフィア会

開催日：2022.12.02

約3年ぶりとなる親睦忘年会を台北市内にて開催。会場となった「點水樓」は台北の中心部の台北アリーナ近くにある江南料理と点心を中心に知られているお店です。当日は小籠包などの点心や江南料理、持ち寄ったウイスキー等を堪能しながら親睦を深めました。



台湾ソフィアンご家族総勢13名が集まり、盛況な会となりました。

デュッセルドルフ・ソフィア会

開催日：2023.01.21

日本食レストラン「日向」にデュッセルドルフ大学への現役留学生2名を含む41名のソフィアンが集まり、新年会を開催。一昨年はコロナのためオンラインで行いましたが、今年は感染状態も落ち着いてきたため対面で行いました。

日本食をつまみながら歓談の後、全員自己紹介、恒例のトンボラ、最後はこれも恒例の武田醇一さん(65 経経)指揮による校歌斉唱と記念撮影で締めくくりました。3年振りのリアル集合であったためか、久しぶりに会う顔に、また初めて会う顔に、一同笑顔が弾けあつという間の3時間でした。会長フックス真理子さん(75 文史、83 院史)、副会長上條速人さん(77 外独)から、デュッセルドルフ日本人クラブ・日本商工会議所事務総長の立川雅和さん(86 外独)に会長を引き継ぐことも全会一致で承されました。



英国ソフィア会

開催日：2023.02.15

ロンドン中華街にて冬の親睦会を開催いたしました。普段は会えない在エジンバラやケンブリッジの仲間たちも駆けつけてくれ、同じ学び舎で過ごした者同士、3時間以上盛り上がりました。

次回のソフィア会は、2023年初夏の予定です。



とちぎ帯広ソフィア会

開催日：2022.10.29

帯広市内「ふじもり」にて総会および懇親会を開催。万全な感染対策を講じながら楽しい時間を過ごしました。初参加3名を含め、近況報告などで盛り上がりました。総会に出席できなかったメンバーを含め会員数は総勢20名を超え、次回の総会、懇親会を楽しみにしつつお開きとなりました。



ニューヨーク・ソフィア会

開催日：2023.01.28

マンハッタンのメキシコ料理店 The Red Grill にてちょっと遅めの新年会を開催しました。コロナ禍で3年間中断していた対面での新年会の再開は我謝京子会長(1987 外西)の挨拶で始まり、次に参加者の自己紹介。ソフィア会のイベントに初めて参加した人もいれば、旧交を温める人も。就活を始めた現役学生もいれば長年のキャリアを退職して新境地に踏み出している人も。皆さんが活躍する分野も金融、製菓、法律事務所、メディア関係と多岐にわたっているだけに興味深い話題が数々出ました。



ソウル・ソフィア会

開催日：2023.02.07

ソウル市内の日本料理店で例会を開催。今回は、初参加者1名、久々の参加者1名を含む写真の7名(駐在員2名、韓国からの留学生3名、韓国人の配偶者2名)が出席しました。

着席するや否や自己紹介もそこそこにキャンパスライフや講義、留学の経験談、あるいは学生寮などの思い出話で盛り上がり、時間が経つのも忘れるほどでした。また、今回の例会は5年間の韓国駐在を終え3月末に日本へ帰任するメンバーの送別会でもありました。



シドニー・ソフィア会

開催日：2023

残暑の続くシドニーで、日本への帰国が決まった下前原博会長(1990 法法)の送別会を開催。2020年11月の就任以来、シドニーソフィア会を盛り上げてくださった会長を、新会員を含む11人が囲みました。

5年前のシドニー赴任直後にシドニーソフィア会に入会した下前原さん。当時の率直な印象は、「盛り上がり足りない」。そうした中で、ホームパーティーを含め、会員が集まる機会をたびたび作り、ベテラン会員から若手の新会員まで、名簿登録者20数人のうち、常に半数あまりが集まるにぎやかな会になりました。後任には松崎真紀新会長(1989 外独)が就任されました。



千曲川ソフィア会

開催日：2022.11.12

3年ぶりの千曲川ソフィア会を開催。鳥居ソフィア会会長、石壁常任委員、木村上智学院理事、そして信州大会で絆が深まったアルプスソフィア会山崎会長と幹事の皆様と長野市出身の事務局職員をお迎えし、33名の参加となりました。「私にとってのソフィア」というタイトルでの鳥居会長のスピーチは、グローバルという側面から見た日本が抱える課題をご自分の体験から明確に提示された素晴らしい内容でした。その後の懇親会は近況報告を交えた和やかな雰囲気で行われ、最後は「アルマ・マーテル」の大合唱。長野のソフィアン同士のつながりを再確認した宵となりました。



ソフィアの 広場

滋賀ソフィア会

開催日:2022.11.12

コロナ禍の間隙を縫って3年振りに滋賀ソフィア会を開催。8年にわたって会の活性化と発展継続に尽力されてきた江森功朗会長（1963 外仏）が勇退され、後任会長に西郷新一（1969 文新）が選任されました。この3年間の物故者への黙とうの後、懇親会。3年ぶりの再開（会）とあつて、開始と同時に談笑の輪が広がりました。参加者の中には東京や富山から駆けつけてくれた会員もあり、近況報告では、制限時間の2分ではとても足りない会員が続出でした。



宮崎ソフィア会

開催日:2022.11.18

3年ぶりとなる宮崎ソフィア会を開催。今回は新しいメンバー・若手も増え、世代を超えて楽しい時間を過ごすことが出来ました。また、会の途中で、熊本ソフィア会から清田様に参加されるというサプライズもあり、宮崎、熊本両県の親睦も図れました。



大分ソフィア会

開催日:2022.11.26

市内アートホテルのモダンチャイニーズレストラン「オペラ」で2年ぶりに茶話会を開催。下村前会長のソフィア会顕彰祝い、大嶋会長の快気祝いを名分とした集いで、安達国会議員（当時）、大分県へ赴任された吉村副知事、内海こども未来課長の新入会員を含む20名ほどが顔を揃えました。ソフィアはファミリーです。その言葉を胸に、コロナ禍の中のささやかな茶話会では、久しぶりに再会した家族が、それぞれの近況を報告し、母校での思い出などを語り合い、楽しい時間を共有しました。



福岡ソフィア会

開催日:2023.01.21

今回は PayPay ドーム横の、メジャーリーグベースボールカフェにて新年会を行いました。コロナ禍で参加の叶わない方もおられましたが、30名の皆様と以前と変わらぬ楽しい楽しい会となりました。またバーバキューとか、したいなーです。九州のソフィア会は年に一度、各県持ち回りで九州ソフィア会が行われており、今年は鹿児島。楽しみです！



埼玉西部ソフィア会

開催日:2022.11.13

総会と鳥飼玖美子先生のご講演及び懇親会を開催。狭山市のライブステーション狭山で39名にご参加頂き、3年振りの対面開催でした。総会では五十嵐会長のご承認を頂き、2023年度に向けてスタートを切りました。鳥飼先生（1969 外西）の講演は「異文化コミュニケーション学—多文化共生に於ける言語と文化—」について約1時間の講演でしたが、興味深いお話に十分な時間が取れず申し訳ありませんでした。総会・集合写真撮影を終了し、懇親会は大盛会のうちにあつという間に時間が過ぎてしまいました。



さいたまソフィア会

開催日:2022.11.19

秋晴れの中、28名のソフィアとその友人が、「大人の遠足第6弾」として、城下町・宿場町・人形のまち岩槻を訪ね、歴史を学びながら交流を深めてきました。主な訪問先は：東玉人形博物館、曹洞宗の芳林寺、浄土宗の浄国寺、県内に残る唯一の藩校である岩槻藩遷喬館、岩槻人形博物館、時の鐘、岩槻城址公園等々盛りだくさん。新発見は廃藩置県以後、芳林寺の敷地に埼玉県庁が1ヶ月置かれていたこと。懇親会は、「ふな又」という江戸時代に創業した老舗料亭。世代を超えた交流が行われ、久々に大いに盛り上がりました。



文京ソフィア会

開催日:2022.12.21

忘年会兼役員会を区内の中華料理店にて開催。当初、全体に声をかけて大規模な忘年会を考えたのですが、感染拡大防止の観点から、とりあえず役員のみで来年の全体会やイベント、総会等について議論しました。コロナ前と同様の規模や内容での活動に戻るまでには、まだ時間がかかりそうですが、再び多くの会員の笑顔に接する機会を着実に増やしていけるよう、試行錯誤で取り組んでいく決意を新たにしました。



熊本ソフィア会

開催日:2023.01.21

コロナ禍でなかなか開催できませんでしたが、3年ぶりに新年会を開催することが出来ました。当日は、ソフィア経営の熊本の老舗中華料理店「紅蘭亭」に、19名の参加を頂きました。会員の皆様の近況報告やソフィアグッズ等が当たる抽選会を催し、最後は全員で校歌を斉唱。コロナの影響で久しぶりの会に、会話も盛り上がり、楽しいひと時を過ごすことができました。



アルプス・ソフィア会

開催日:2023.02.05

松本市のブエナビスタホテルにて、今年度の総会・懇親会を開催。来賓として鳥居ソフィア会会長、杉浦千曲川ソフィア会会長、松下南信州ソフィア会代表をお招きし、会員を含め総勢 29 名に参加いただきました。総会では、事業・会計報告、今年度の事業計画及び新体制の起案等承認いただき、会の最後には、ワシントン大学名誉教授であり、昨年夏松本市に移住された大内二三夫さん（1972 理物）から「シニアソフィアンからのメッセージ～人生の第四楽章を松本で生きる」と題した講演が行われました。



ニューヨーク東京会

開催日:2022.10.08

浅川会長（1967 外西）がニューヨークから東京に帰任する際、先輩から「ソフィアンのつながりを東京でも続けて」と言われたのが、ニューヨーク・ソフィア会東京支部の立ち上げに繋がったよし。全国に散らばったソフィアンと連絡を取り、ソフィアンが経営する「足利フラワーパーク」訪問が成功すると、こんどは「山梨のブドウ狩りを計画。ご苦労された参加者集めから当日の様様、山梨ソフィア会の皆さんとの交流などの奮闘記はソフィア会ホームページをご覧ください。



井上英治先生ゼミ OB・OG 会

開催日:2022.11.06

今年で 18 回目となる井上英治先生のお墓参りを有志で行いました。その後、近くのデニーズで食事をしながら互いの近状を報告しつつ、結局 3 時間半以上語り合いました。今回はやんちゃなお子さんもむとり参加し、とてもにぎやかな会になりました。また今回は昨年に引き続き、遠くに住む人や当日参加できない人など何人かに途中オンラインで参加してもらいました。この試みは来年以降も続けるつもりです。



硬式庭球部 OBOG 会

開催日:2022.11.26

創部 80 周年記念式典を主婦会館プラザエフにて開催いたしました。当日は上智大学体育会 OB 会小川会長、鈴木副会長、庭球部顧問理工学部江馬教授ほか大学関係者の来賓をお迎えし、昭和 40 年卒の大先輩から令和の卒業生まで 73 名の OBOG と現役員とあわせて総勢 110 名余りの参加者で大盛会となりました。式典は、来賓の皆様からお祝辞をいただき、乾杯ののち歓談を挟んで動画による現役の活動報告、今年度リーグ戦で 4 部に昇格した女子部の特別表彰、OBOG 代表の挨拶、応援団の皆様によるエール、記念写真の撮影と盛り沢山のイベントになり、卒業以来の再会となった参加者も多く、時と空間を超えて皆現役時代に戻って楽しく懐かしいひと時を過ごすことが出来ました。

石川ソフィア会

開催日:2023.02.19

いつもより遅くなりましたが金沢東急ホテル 2 階のレストラン「マレ・ドール」にて、初参加 6 名を含む 25 名の出席者を得て新年会を開催しました。今回は隣県の富山ソフィア会の川合会長、吉田事務局長もお招きし、2020 年の新年会以来の 3 年ぶりとなる対面での開催ということもあって、和やかな盛り上がりとなり、「顔を合わせて集う」良さを実感しました。



バレーボール部 OBOG 会

開催日:2022.11.03

3 年ぶりの対面での OBOG 総会を主婦会館プラザエフにて開催。現顧問の早下先生、元顧問のキューレ先生のご臨席を賜り、OBOG21 人、現役学生 33 人の合計 56 人の盛大な会になりました。コロナ感染防止対策として、参加はワクチン接種済の方に限定。会場への入場時に検温、手の消毒を行い、会場内ではアクリルパネル付テーブルに着席して飲食。着席時以外の会話にはマスク着用をお願いしました。やはり皆が一堂に集まるという事は良いものです。久しぶりにお会いした先輩方、後輩達との会話が弾み、とても楽しい会になりました。



NEC 宇宙ソフィア会

開催日:2022.11.18

NEC の宇宙事業に関わるメンバーで構成している NEC 宇宙ソフィア会を 3 年ぶりに開催。コロナ第 8 波が懸念される中、急いでの開催となったため、予定が合わないメンバーも多かったのですが、久しぶりの再会や営業に配属された新入社員の参加もあり、近況報告や自己紹介など和やかな会となりました。



SPECC ソフィア会

開催日：2022.12.10

土曜の夕7時30分からSPECCのズームミーティングを開催しました。当日は懇親会ということで、問題検討などは一切無し。飲み物を片手に気軽な近況報告やトークで盛り上がりました。丁度前日に開催されたオールソフィアーズクリスマスの事や、新しく会員になった方のご紹介、SPECCのクリスマスメッセージ、また、来年のASFへの参加方法など、予定時間を大幅に過ぎて話題がつきませんでした。



ソフィアスキークラブ

掲載日：2023.01.16

2022年10月ソフィア会に登録した生まれたての団体の自己紹介です。詳しくは投稿記事をもっと詳しくはソフィアスキークラブHP：<http://sophia-sc.org>をご覧ください。



※クラブ紹介：SAJ全日本スキー連盟に所属し、現在20名を超える資格者（SAJ公認指導員/検定員）を有しています。

※12月研修会：2022年12月17日（土）～18日（日）長野県菅平高原スノーリゾートで初滑りを行いました。

※SAJスキー検定会：シーズン最後の行事で、スキー検定1～5級の事前講習と実技検定をクラブ主催で行います。

応援団OB会

開催日：2023.02.18

主婦会館プラザエフにて応援団OB会懇親会を開催。黒川OB会会長以下19名が参加しました。初代安達先輩に乾杯のご発声をいただき、顧問の川中先生からは現役の状況を伺い、各代の近況報告で親睦を深めました。校歌の斉唱では、57代芥川さんのリーダーで17代以下の元リーダー部員が隊形を取りました。



金祝燦燦会

開催日：2023.01.23

金祝燦燦会は留学生による第11回俳句コンテスト2022秋/冬の表彰式を、前回に引き続きズームによるリモートで開催。学生が参加しやすい昼休みに開始し、佐久間理事長をはじめ陣道学長、サリ理事、柳澤学生局長からはそれぞれお言葉をいただき、その他学院・学校から多くの方々の参加があり、途中で出入はあったものの全部で42名。うち留学生はアメリカ、中国、マルタ、ベトナム、インドネシア、フィリピン、韓国、モンゴル、イギリス、ドイツから16名の参加がありました。日本語俳句の最優秀賞には中国出身のサイ・インインさん、優秀賞はモンゴル出身のバトエルデネ・ハグワテラムさん、佳作賞に韓国出身ベク・スンジュンさんとアメリカ出身のハンター・ダルトンさんがそれぞれ受賞。英語俳句の最優秀賞にはインドネシア出身のユウジナ・プスパ・ピタロカさん、優秀賞にドイツ出身のアンナ・レナ・ブランズさん、佳作賞は中国出身のシュー・ユートンさん、フィリピン出身のエドワード・ルゴ・アシスさん、それとアメリカ出身のアネット・ミシェル・アキラさんが受賞された。日本語、英語の最優秀作及びその和訳を以下にご紹介します。

日本語句最優秀賞 星月夜一曲終わりの一人なり（サイ・インインさん作）
英語句最優秀賞 Folded in warm quilts toes peeking out of hem safe from winter（ユウジナ・プスパ・ピタロカさん作）
和訳：霜除けにキルトつま先ずこし覗き

ソフィア経済人倶楽部

開催日：2023.01.18

3年ぶりのソフィア会、ソフィア経済人倶楽部共催の賀詞交歓会で赤坂アークヒルズクラブ（アーク森ビル37F）に60名のソフィアが集いました。主催者側から村田会長、続いて鳥居ソフィア会会長のご挨拶。続いてご来賓の佐久間理事長、陣道学長からご挨拶をいただきました。また、昨秋、瑞宝大綬章を受章された元駐米大使、元特別招聘教授の藤崎様からも。藤崎様は現在、中曽根平和研究所理事長、日米協会会長の要職を務め、ソフィア会主催「ソフィア国家公務員と話そう」の講師もお引き受けいただいています。

来賓ご挨拶への返礼としてSBC佐々木かをり副会長が返礼のご挨拶。この後、前ソフィア会会長、前SBC専務理事の戸川様に乾杯の音頭をとっていただき、高らかに杯を上げて、皆さん、歓談タイムに入りました。



上智大学カトリック学生の会 OB/OG の集い

開催日：2023.01.21

マリア聖堂にてイエズス会のペトロ菅原裕二神父（1980 法法）の司祭叙階30年をお祝いする記念ミサを行いました。神父様を知る上智大学カトリック学生の会（カト学）の有志が一堂に会し、厳かな空気の中にも感謝にみちた歓喜のうちに、菅原神父様司式の祭壇を囲みました。神父様は学生時代から、後輩からも親しみを持って「わらさん」の愛称で呼ばれ、ご自身も「笑」をトレードマークにしてこられました。学部卒業と同時にイエズス会に入会された菅原神父様は、33年の長きにわたってローマに滞在し、24年間はグレゴリアン大学に奉職され、昨年10月、母校にお帰りになりました。



追悼

通知を頂いた方々のお名前と卒業年次・学部学科を掲載し、故人のご冥福を祈るとともに同窓生各位にお知らせいたします。

2022年10月～2023年3月届出(敬称略)

卒年	学科略称	氏名
1945	専 経	村田 芳彦
1947	専 新	須釜 昭三
1947	専 経	小島 夏生
1949	文 英	木村 豊
1953	文 英	加藤 裕
1953	文 英	島津 光二
1953	経 商	井戸井 剛
1953	聖 母	風間 まさ子
1954	経 経	金親 二郎
1954	経 経	遠山 弘
1955	文 英	増田 平吉
1956	聖 母	松永 尚榮
1957	文 英	隈井 清臣
1957	文 新	橋村 令助
1957	文 新	小清水 龍次
1957	文 新	松前 吉昭
1957	経 商	三井 芳郎
1957	経 商	天貝 健志
1957	経 商	宮里 正一郎
1958	経 商	石原 穰
1959	文 新	近藤 恒介
1959	経 商	田中 明
1960	文 独	白井 淳
1960	外 英	辻井 俊幸
1960	聖 母	田村 公子
1961	文 新	北砂 順布
1961	法 法	川島 昇一郎
1961	法 法	新藤 一郎
1961	法 法	湯浅 慎一
1961	聖 母	松本 美紗子
1962	経 経	立石 義明
1962	経 商	國生 勝義
1962	外 独	石原 利祐
1962	外 西	松原 哲夫
1963	文 英	青木 英行
1963	文 新	松岡 宥二

卒年	学科略称	氏名
1963	法 法	渡邊 定敬
1963	外 仏	細谷 博
1963	外 西	阿部 三男
1964	法 法	国吉 一夫
1964	経 商	青木 武二
1964	外 英	櫻井 光雄
1964	外 独	飯塚 義光
1964	外 仏	山脇 百合子
1965	経 商	角田 栄一
1965	外 独	竹嶋 俊秀
1965	外 仏	高木 正子
1965	外 仏	横山 三四郎
1965	外 西	益田 泰徳
1966	文 英	小林 敏男
1966	文 英	菅原 勉
1966	文 新	増田 一也
1966	法 法	上原 康裕
1966	外 英	川部 誠
1966	外 仏	鎮目 治子
1966	外 西	宇和島 洋文
1966	外 露	坂口 克之
1966	理 化	河部 真
1966	理 化	塚本 國雄
1967	経 商	長谷川 利夫
1968	文 史	市川 嘉祐
1968	文 英	西村 育代
1968	法 法	吉永 浩三
1968	経 経	坂田 和實
1968	理 物	尾崎 潤二
1968	院前文英	中津 幹
1969	法 法	大貫 博光
1969	外 露	猿田 博文
1969	理 機	小池 典夫
1969	聖 母	塩崎 純子
1971	外 英	熊倉 悦
1971	外 西	渡辺 博志

卒年	学科略称	氏名
1972	文 教	田邊 哲夫
1972	文 国	境野 雅章
1972	文 社	藤田 純子
1972	経 経	永野 優
1972	理 化	鈴木 登
1973	文 教	平田 理知子
1973	法 法	有馬 啓介
1973	経 営	大塚 誠
1973	理 電	山田 実
1975	法 法	堅田 剛
1976	文 社	竹内 茂
1976	法 法	高橋 徹
1978	経 営	荻原 健一
1978	外 独	明石 政紀
1979	外 比	横野 麻利子
1980	理 電	榎本 英夫
1981	法 法	別宮 浩志
1982	法 法	久慈 直太郎
1982	経 経	鎌形 暢
1982	経 営	中澤 淳彦
1982	外 英	山田 典之
1983	文 史	増田 聡子
1983	院前文国	野口 久美
1985	神 神	安次嶺 晴実
1985	神 神	大山 勇治
1985	経 経	長谷部 実
1986	文 社	影山 博史
1987	聖 母	加藤 雪乃
1990	文 史	小出 幹彦
1993	法 法	足助 一郎
1995	法 国	荒川 佳子
1995	比 比	江口 雅代
1997	文 新	鈴木 しのぶ
1997	比 日	島塚 容子
1998	院前外比	古野 恭代

ソフィアンズ DC カード WEB 入会のご案内

ソフィア会では「三菱 UFJ ニコス株式会社」と提携して「ソフィアンズカード」を発行しています。

このカードを利用すると、カード会社から利用代金の0.03%～0.05%がソフィア会に還元されます。ソフィア会は、この収入を奨学金、課外活動支援などのために、上智大学に寄付しています。

現役学生の支援のために、是非、ソフィアンズカードにご加入ください。

本人会員とともに、ご希望により家族会員カードも発行されます。また、より特典の多いゴールドカードも選択できます。

加入希望の方は、右記よりお申込みください。



ソフィアンズ DC カード (一般)
年会費 1,375 円 (税込) (初年度無料)

[WEB 入会 URL]

https://www.cr.mufig.jp/landing/apply/card/dc_sophia/index.html



ソフィアンズ DC カード (ゴールド)
年会費 11,000 円 (税込)

[WEB 入会 URL]

https://www.cr.mufig.jp/landing/apply/card/dc_sophia_gold/index.html



第31回コムソフィア賞は高祖敏明先生 11月15日に授賞式と記念講演会を開催

ソフィア会がマスコミ・ソフィア会と共催しているコムソフィア賞は、『潜伏キリシタン図譜』の編集・出版に携わった前上智学院理事長の高祖敏明さん(71文哲、76院教博)が受賞されました。

表彰式は11月15日午後6時から、2号館17階の国際会議場で行われ、高祖先生ほか『潜伏キリシタン図譜』の編集・出版に尽力をされた東京大学名誉教授の五野井隆史さん(本学卒業)と「かまくら春秋社(出版)」経営の伊藤玄二郎さんのお二人も出席。ソーシャルディスタンスを確保した中で、補助いすも利用して90人近い来場者が表彰式と記念講演を熱心に見守りました。

鳥居正男上智大学ソフィア会長とサリ・アガスティン上智学院総務担当理事(当時)も出席する中で、表彰状と元内閣総理大臣

の細川護熙さん制作の「刷毛目丸皿」が副賞として贈られました。

記念講演のタイトルは「潜伏キリシタン図譜が問いかけるもの」。高祖先生は、図譜の資料を示しながら、禁制下で信仰を守り続けたキリシタンの歴史を語りました。会場には約90名が参加、熱心に聞き入っていました。



オールソフィアンのクリスマス(ASC) – 12月9日にハイブリッドで開催

2022年の「オールソフィアンのクリスマス(ASC)」は、3年ぶりの会場での対面参加とオンラインでの視聴の、ハイブリッド開催となりました。コロナ禍での規制が多く、食事とアルコールの提供はなし、密にならないように間隔を空けて椅子を配置し、事前登録制の人数制限をすることとなりました。事前登録数も多く、数日前には申込みを締切ることとなりましたが、会場には早くから懐かしい顔が集いました。



午後6時半、会場となった学内アクティブコモンズ(9号館地下)での第1部「クリスマスのいのり」では、聖歌隊の歌に導かれ、菅原裕二神父が登場、厳かながらあたたかい説教が、日本語と英語ではじまりました。続いて、公募した「わたしのいのり」が読み上げられ、アジジの聖フランシスコの平和を求める祈りを参加者全員で唱えました。

第2部の「クリスマスのつどい」は、ハンドベルクワイアの演奏が流れた後、アナウンサーの川島葵さん(文新)と放送研究会の河村龍之介さん、百済綾希さんの司会でスタート。ソフィア会の鳥居正男会長、畔道佳明上智大学長からご挨拶をいただきました。

ここからは、学生、卒業生による音楽パフォーマンス。学生アカペラサークルL'arbre de

Harmonie(ラルブル・ドゥ・アルモニー)、管弦楽部、Jazz研究会のみなさん、卒業生のプロのアーティストは松永紀見子さん(文独)、ピアノは高山伸理さん、そして藤島新さん(外英)、ピアノはエルトン永田さん。あまりの盛り上がり、予定時間をオーバーしました。

Youtubeでの配信も問題なく進行し、世界中のご家庭からご視聴いただいた多くのソフィアンから嬉しいフィードバックをいただきました。

合計6,000人の正会員、そして準会員を迎えました 3月の学位授与式と4月の入学式

上智大学は東京国際フォーラムで、3月28日に2022年度学位授与式を、そして4月1日に2023年度入学式を行いました。

学位授与式では2,993人が卒業。大学はその様子をFacebookで「コロナ禍の学生生活を乗り切った学生たちの旅立ちの日は、満開の桜とやわらかな春の光が印象的な、笑顔あふれる一日となりました」と伝えています。

また、4月の入学式では学部生2,824人、大学院生473人、助産学専攻科生10人を迎え入れました。国際フォーラムでの入学式に続いて、四谷キャンパスでは学科別集会が行われ、フレッシュマンたちの新しい生活がスタートしました。

今年、コロナ禍で中止していたオリエンテーション・デー(キャンプではなく、1日だけのオリエンテーション)やフレッシュマンウィークも行われ、これも大学は「特にフレッシュマンウィークは大盛況!コロナ禍前の活気が戻り、多くの課外活動団体が熱心に新入生を勧誘していました」と伝えています。

これにより、ソフィア会は3,000人弱の正会員と、同時に3,000人弱の準会員(現役学生)を迎えました。



スマホでメールアドレスを簡単登録

皆様のメールアドレスをソフィア会にぜひご登録ください。会報「ソフィアンズナウ」郵送先変更を希望される場合には、住所もご登録ください。

<https://www.sophiakai.gr.jp/mailreg/>



訃報(2022年秋~2023年春)

※敬称略

8月1日	徳永 晴美	上智大学元専任教員(外国語学部ロシア語学科)
10月30日	山下 栄一	上智大学元専任教員(旧文学部社会学科)
12月2日	小関 健	上智大学名誉教授(理工学部電気・電子工学科)
1月5日	フランシス・ブリット	上智大学名誉教授(外国語学部英語学科)
1月24日	松山 定彦	上智大学元専任教員(理工学部物理学科)



ソフィア会維持会費（運営協力）について

ソフィア会は、最終年次の学費納入の際に一括して納める「ソフィア会終身会費」とは別に、卒業後に任意で納め頂く「ソフィア会維持会費（運営協力費）」により運営されております。税制上の優遇措置はありませんが、ソフィア会の各活動に対して迅速かつ機動的に充当させて頂きます。学部・学科同窓会、クラス、クラブ、サークルなど、団体での納入も受け付けております。

●「ソフィア会維持会費（運営協力費）」の単位

1口 1,000 円から3口を目安に、何口でも納入頂けます。

●用途

- ・会員相互の親睦活動
ASF・ASC・講演会等のイベント、会報の発行、ソフィアズクラブの運営など
- ・母校への貢献活動
ソフィア会奨学金の給付、学生の課外活動支援、母校の教育研究活動への支援等

●納入方法

1. 銀行振込

- (1) 三菱 UFJ 銀行 / 四谷支店 (店番 051) 普通 0410321 口座名義: ジョウチダイガクソフィアカイ
 - (2) 三井住友銀行 / 麹町支店 (店番 218) 普通 5139304 口座名義: ジョウチダイガクソフィアカイ
 - (3) ゆうちょ銀行 / O-19 (ゼロイチキュウ) 店 (店番 019) 当座 0336818 口座名義: ジョウチダイガクソフィアカイジカイヒ
- 「卒業年（西暦）」と「卒業学部名の漢字一文字」をカタカナで、お名前（カタカナ）の前にご記入ください。
ご記入例: 2001 年経済学部ご卒業の紀尾井一郎さん → 2001 ケイ・キオイチロ

2. 郵便振込

ソフィア会事務局までご連絡ください。郵便局専用の「払込取扱票」を、お送りいたします。

3. 自動引落し（年払い制）

ソフィア会事務局までご連絡ください。「預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書」をお送りします。
毎年 12 月 6 日にお届出の金融機関口座から指定金額が自動引落としされます。金額は、3,000 円、5,000 円、10,000 円のいずれかをご指定ください。

お問い合わせ

上智大学ソフィア会事務局

TEL 03-3238-3041

E-mail : info@sophiakai.gr.jp

会員番号がわかりの方は通信欄にご記入ください。

各票の※印欄はご依頼人において記載してください。

02	東京	払込取扱票				通常払込料金 加入者負担					
口座記号番号					金額	千 百 十 万 千 百 十 円					
0	0	1	7	0	1	3	3	6	8	1	8
加入者名 上智大学ソフィア会維持会費					料金	備考					
フリガナ 氏名			フリガナ 旧姓		卒年(西暦)	学部		学科			
住所			〒		電話番号		()				
電子メールアドレス											
通信欄											
<input type="checkbox"/> 匿名希望 (レを付してください)					会員番号						
裏面の注意事項をお読みください。(ゆうちょ銀行)(承認番号 東第49663号) これより下部には何も記入しないでください。											

切り取らないでお出ください。

振替払込請求書兼受領証

口座記号番号	0	0	1	7	0	1	通常払込 料金加入 者負担
加入者名	上智大学ソフィア会 維持会費						
金額	千 百 十 万 千 百 十 円						
ご依頼人	おなまえ						
料金	日 附 印						様
備考							

記載事項を訂正した場合は、その箇所を訂正印を押してください。

この受領証は、大切に保管してください。



(ご注意)

- ・この用紙は、機械で処理しますので、金額を記入する際は、枠内にはっきりと記入してください。また、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。
- ・この用紙は、ゆうちょ銀行又は郵便局の払込機能付きATMでもご利用いただけます。
- ・この払込書を、ゆうちょ銀行又は郵便局の渉外員にお預けになる場合は、引換えに預り証を必ずお受け取りください。
- ・ご依頼人様からご提出いただきました払込書に記載されたおところ、おなまえ等は、加入者様に通知されます。
- ・この受領証は、払込みの証拠となるものですから大切に保管してください。

収入印紙
課税相当額以上
貼 付
印

この場所には、何も記載しないでください。